

令和7年度入学 一般選抜後期日程
理科（化学） 講評

第1問

【出題のねらい】

中和反応と塩については語句や中和反応を示す化学反応式を、生成された塩の特性等については基礎的な理解度を、それぞれ問うた。

【講評】

用語の説明等、穴埋め問題については概ね正答率が高かった。一方、計算問題や説明を求めた問の正答率が極めて低かった。単位や有効数字の指示を守っていない解答も見受けられた。問題文をよく読み、理解すべき部分や解答に求められている内容を把握して解答してほしい。

第2問

【出題のねらい】

飽和蒸気圧を正確に理解した上で、応用的に実験から分子量を正確に計算できることができるかを問う問題。

【講評】

実験の圧力や温度とは何を指しているのかをしっかりと理解してない解答がみられた。特に、液体の蒸気圧がどのように実験にかかわってくるのかを理解して、教科書の章末問題をしっかりと解けるように学習してほしい。

第3問

【出題のねらい】

アルコールの酸化実験に関する出題である。基本的な酸化反応や、実験でどのようなことが起きるかを理解できているかを問うた。

【講評】

アルコールの基本的な構造や化学反応式については理解できているようであった。一方で、実験操作の中でどのようなことが起こっているかについては、イメージができていない解答も散見された。教科書の学習内容を中心にしっかりとイメージづくりをして、試験に臨ん

でもらいたい。

第4問

【出題のねらい】

水溶液の凝固点降下に関する出題である。水の状態変化に関する基本的な理解と、溶液の濃度及び凝固点降下に関する計算方法の理解ができているかを問うた。

【講評】

受験者は概ね、水溶液の状態変化についての基本は理解できているようであった。途中の計算部分については、液体が固体になる際に、どのようなことが起きるかをイメージできていると、正答に近づくが、それができていない受験者が多い印象であった。用語の暗記だけでなく、内容をしっかり理解しながら学習を進めてもらいたい。